

『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の進捗状況について(令和6年度分)

令和5～9年度の5年間の計画期間として策定した『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』に掲載された事業の進捗状況を点検・評価しました。

【点検・評価の方法】

銚子市地域福祉計画掲載157事業と、地域福祉活動計画掲載33事業について、事業担当課において、令和6年度の実行状況、今後の課題等を点検・評価しました。
(一部、計画作成所管課(社会福祉課)において、調整したものがあります。)

評価基準は、次のとおりです。

評 価	基 準
A	計画どおりに施策・事業が実施できたと思われるもの、または目的を達成し完了したもの
B	施策・事業を実施したが、何らかの課題がある場合や、さらなる充実が必要と思われるもの
C	施策・事業を実施したが、進展が見られなかったと思われるもの
D	未実施、または目的の達成前に中止した施策・事業

【点検・評価結果】

＜地域福祉計画＞

157事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

(複数の課・室で重複して実施している事業は、最も良い評価を採用しました。)

A B C D評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」37事業	20	15	1	1
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」16事業	10	6	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」33事業	21	10	2	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」49事業	32	16	0	1
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」22事業	7	15	0	0
計画全体157事業	90事業 (57.3%)	62事業 (39.5%)	3事業 (1.9%)	2事業 (1.3%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	146／185	78.9／100
基本方針2	68／80	85.0／100
基本方針3	137／165	83.0／100
基本方針4	208／245	84.8／100
基本方針5	80／110	72.7／100
計画全体	639点／785点	81.4点／100点

令和6年度の取組状況は、A B C D評価におけるA評価が全157事業中90事業、全体に占める割合が6割程度で、概ね計画どおり進んでいると考えます。

B評価の事業62事業は、実施する中で課題があればその解消を図りつつ、事業の更なる充実に向けた取組が着実に行われています。

事業の進展が見られなかったC評価3事業は、事業の推進にあたっての課題等が見えつつある一方で、今後の事業推進にあたっての方策は引き続き検討する必要があります。また、未実施であったD評価2事業について、未実施が続く場合は、その必要性や実施可能性も含めて検討・分析することが必要ではないかと考えています。

また、「基本方針5 暮らしやすい生活環境をつくる」の項目は、令和5年度の取組状況と同様に低い点数にとどまったことから、引き続き生活を支える環境の整備や主体な健康づくりの推進へ取組強化を進めます。

【地域福祉推進協議会委員からの意見】

行政における点検・評価に対し、地域福祉推進協議会委員から次のとおり意見がありました。

これら意見のうち点検・評価の手法等に関するものは、次年度以降の点検・評価に反映させるとともに、個別の事業に関するものは、事業担当課にフィードバックし、事業内容の改善や予算措置の検討などを行うこととします。

<計画全体に関すること>

項目	意見の内容
計画の見直し 伊東委員	今年度は計画の中間見直しの時期となっているが、計画掲載事業のうち、中止・廃止となった事業は評価の対象から除外してもいいのではないかと。

	また、新規事業や事業の統廃合があった場合なども新たに掲載、修正するなど、実態に即した評価をしてもいいのではないか。
全体 五十嵐委員	昨年の進捗状況と比べてみると、A から B へ評価を下げた事業が 15 事業と変動があった中では一番多かった。一方、B から A へ評価が上がった事業も 7 事業あった。その他 5 事業で評価の変動があった。評価が下がった事業の中には、いろいろな要因でうまく事業が推進できなかったものもあるが、同じ状況でも「何らかの課題の発見」や「さらなる充実」を念頭に評価を下げた事業もあるように見受けられる。せっかく評価を実施しているので、事業の充実に向けたきっかけにしてほしい。
全体 五十嵐委員	評価の点数だけ見ると、計画通り取り組みが進んでいるように見えるが、福祉の担い手不足や地域の衰退等、現場の人間が感じている課題を踏まえて施策を考えてほしい。
全体 小野委員	特定の世代だけでなく、異なる世代間の交流を促進する事業があるとよい。
評価 川上委員	計画を P D C A サイクルに沿って進めるとされているが、見つけた課題をどのように解決するかが見えてこない。 また、担当課室によって事業の評価にばらつきがあるように感じる。

<個別事業に関すること>

事業番号	事業名	意見の内容
121502 小野委員	育児サークルの支援	1 つでも活動の実態があるという情報があるのか。
211104 小野委員	自殺対策強化事業（ゲートキーパーの育成）	実際に養成講座を受けた方が直面した事例があれば知りたい。
311103 吉田委員	民生委員・児童委員の活動支援	今年度、民生委員・児童委員の一斉改選があるが、なり手が不足している。地域のためにという意識が不十分であると感じる。
321303 小野委員	公民館施設の貸出	活用が多く良いと思う。 市民センター改修中は、代替え施設はあるのか。
511101 大塚委員	バリアフリーやユニバーサルデザインの周知・整備	地域の学生からデザイン案を募集してみると、良いアイディアが出るかもしれない。

<地域福祉活動計画>

33事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

A B C D評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」13事業	11	1	0	1
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」2事業	0	2	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」9事業	5	4	0	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」9事業	6	3	0	0
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」0事業	0	0	0	0
計画全体33事業	22事業 (66.7%)	10事業 (30.3%)	0 (0.0%)	1事業 (3.0%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	58／65	89.2／100
基本方針2	6／10	60.0／100
基本方針3	37／45	82.2／100
基本方針4	39／45	86.6／100
基本方針5	—	—
計画全体	140点／165点	84.8点／100点

令和6年度の取組状況は令和5年度とほぼ同じです。A B C D評価におけるA評価が全33事業中22事業、全体に占める割合が66.7%、B評価は10事業で、概ね計画どおりに進んでいると思われます。令和7年度も現状は維持しながらも取組の更なる充実を図ります。

【地域福祉推進協議会委員からの意見】

社会福祉協議会における点検・評価に対し、地域福祉推進協議会委員から次のとおり意見がありました。

これら意見のうち点検・評価の手法等に関するものは、次年度以降の点検・評価に反映させるとともに、個別の事業に関するものは、事業内容の改善の検討などを行うこととします。

<計画全体に関すること>

項目	意見の内容
計画の見直し 伊東委員	今年度は計画の中間見直しの時期となっているが、計画掲載事業のうち、中止・廃止となった事業は評価の対象から除外してもいいのではないかな。 また、新規事業や事業の統廃合があった場合なども新たに掲載、修正するなど、実態に即した評価をしてもいいのではないかな。
全体 五十嵐委員	評価の点数だけ見ると、計画通り取り組みが進んでいるように見えるが、福祉の担い手不足や地域の衰退等、現場の人間が感じている課題を踏まえて施策を考えてほしい。
全体 小野委員	特定の世代だけでなく、異なる世代間の交流を促進する事業があるとよい。
評価 川上委員	計画をPDCAサイクルに沿って進めるとされているが、見つけた課題をどのように解決するかが見えてこない。

<個別事業に関すること>

特になし